

1953年(昭和28年)6月7日創立

京都府馬術連盟創立50周年記念

式典並びに祝賀会

2004年10月17日(日)

於 京都ホテルオークラ

式次第

*式典 11時～11時30分

物故者へ黙禱

主催者挨拶 千 玄室 (京都府馬術連盟 会長)

来賓ご挨拶 竹田 恆和 (日本オリンピック委員会 会長)

小谷 隆一 (財団法人京都府体育協会 会長)

功労者表彰 東良 定右工門

鷹箸 實

高三 秀成

西村 充司

東良 弘一

特別功労者表彰

荒木 雄豪

太田 克己

佐野 種茂

北浦 義三

坪田 毅

藪本 栄三

堀田 武司

*祝賀会 11時30分～13時

乾杯 荒木 雄豪 (京都馬術連盟 初代理事長)

歓談

余興 尺八・お琴・三味線演奏

謝辞・閉会の辞 佐野 種茂 (京都府馬術連盟 副会長)

ご挨拶

京都府馬術連盟 会長 千 玄室

京都府馬術連盟は、この度創立 50 周年を迎えました。このことは一重に創設にかかわられた先達の方々、そして歴代理事長及び会員皆様の熱意やご努力とともに、背後から支えていただいた京都府体育協会また日本馬術連盟など多くの方々のご支援の賜物であると深く感謝御礼申し上げます。

京都に於いては、100 年前、京都大学馬術部が創設されたのが馬術競技が行われるようになった最初であり、戦中を経て戦後第 1 回国民体育大会(昭和 21 年)が契機となって各大学馬術部や一般の乗馬クラブの活動が盛んとなり、昭和 28 年に京都馬術連盟が創立された次第であります。

当初は会長は置かず、理事長をトップとして連盟の運営をすすめて参りましたが、創立 25 周年にあたる昭和 53 年に会員皆様のご推挙により初代会長に選任され、2 巡目の京都国体に栄冠をもたらすようにとの大きな使命を負わされました。役員、選手、関係者ご一同のご尽力により、昭和 63 年の京都国体では見事に総合優勝を成し遂げることが出来たのです。

京都府馬術連盟には、この 50 年の間、多くの選手を育て、また、オリンピックにも選手やコーチを送り、日本馬術界全体にも大きな貢献を果たして来ることができました。その任にあたって下さった方々に深甚なる敬意を表すものであります。

馬術は人馬一体となって競技するものであり、心と技の両方が整わなければ良い結果を生むことは出来ません。

最近の乱れた世の中を正していくためにもぜひ多くの方が馬術を会得され技と共に心を磨いていくことに精進されるよう願っております。そのため京都府馬術連盟が地域の人々と共にスポーツとしてのみではなく、社会教育の場としても発展していくことを願い、この 50 年間賜りましたご厚情の御礼を申し上げますと共に、これから 75 年、100 年に向けてのご交誼をいただきますようお願いし会長としてのご挨拶といたします。

祝 京都府馬術連盟 50 周年

京都府馬術連盟 副会長 佐野 種茂

今回京都府馬術連盟創立 50 周年を迎えるに当たり、創立時の事を思い出すままに記して見ました。

何分半世紀前の事ですので記憶に間違いが有ればお許しください。

終戦後、京都三大学（京大、同大、立大）にも馬術部が復活しそれぞれ対外的にも活躍するようになり、私は特に京大馬術部 OB の荒木雄豪氏とは仲良く付き合っていて、時には荒木氏の父君の俊馬先生に、三人でドリンクを飲み連れていたたりした仲でしたので二人で相談して、同大馬術部 OB の西村喬氏を誘って三人で京都馬術連盟立ち上げの相談をし、すぐに話がまとまりましたが、その時京都の馬術界は戦前から学生馬術界がリーダーシップをとって来たので、会長を置かずに三大学 OB の我々が主になって理事互選の理事長制でやろうという事になり、荒木氏・西村氏・私の三人で持ち廻りで理事長をやっていました。ところが理事長が変わるたびに、事務局が京大馬術部から同大馬術部又立大馬術部と変わり大そう不便だから、新しく出来て荒木氏が教鞭を取っている京都産業大学馬術部に固定して事務局を置いて頂くことになりました。

メキシコ五輪後荒木氏は京都馬術連盟の運営からはなれてしまいましたが、そろそろ京都国体の実施も考えなければならなくなり、同大馬術部 OB の千宗室（現 千玄室）氏を会長に迎えたという事になり、私から裏千家に出入りしていた同じ同大馬術部 OB の須賀靖男氏にお願いして千氏の意向を伺ってもらったところ、一度会って話を聞こうと言って頂いたので、東良弘一氏に立ち会ってもらって京都乗馬クラブの覆馬場でお目に掛かり会長就任を依頼しました。その時条件として会長になって頂けたらお辞めになる時まで、私も必ず会長を補佐させて頂くと申し上げてついに京都府馬術連盟の会長を引き受けてもらいました。そして、京馬連の事務局を裏千家センター内に置いて頂き今日の京都府馬術連盟の姿が出来上がって今日の隆盛の元になった次第です。

京都馬術連盟創立 50 周年を祝す

初代理事長 荒木 雄豪

昭和 28 年に京都馬術連盟が創立されてから昨年で満 50 年になるようで誠に御出たく、その創立に関係した者の一人として心よりお祝い申し上げます。

皆様方もご承知の通り、京都府は戦後昭和 21 年から開始された国民体育大会の第 1 回大会において、その一部の種目を担当した府県の一つであり、馬術競技は当時長岡にあった地方競馬場で行われ、私も競技に出場された京大馬術部の先輩の付添で参加致しました。当時の京都では大学の馬術部による学生馬術連盟がその年に創られたばかりで一般の馬術連盟は存在していなかったため、国体も京都府体育協会の主催として、大学馬術部関係者達の努力により実施されたという事を、先日立命館大学馬術部 OB の北浦義三氏からお聞きしました。

その後京都では、戦後最初の民間団体による自馬競技会である銀蹄会主催自馬競技大会が昭和 26 年から 10 回開催されましたが、その頃から京都にも一般の馬術連盟を創る必要があるという動きが生じ、昭和 28 年 6 月 7 日に京都馬術連盟創立総会が京大の楽友会館で開かれました。その時の団体会員としては、京都大学馬術部とその OB 会である銀蹄会、同志社大学馬術部と健蹄会、立命館大学馬術部とその OB 会の 6 団体であり、個人会員としては各大学馬術部 OB から南大路謙一氏ほか数名の方がおられたように思います。

会則に関しては、当時実際に馬に乗っていた各大学馬術部の学生や若手 OB 達の親睦および馬事情報の交流の場とするのが目的、という事で原案の作成を南大路先生にお願いしました。この会則では会長は置かず、2 年任期の理事長交代制になっていましたが、昭和 63 年の二巡目京都国民体育大会の前に会長制に変更されたと聞きました。

設立総会では会則に従って団体から各 2 名、個人から数名の理事が選出され、互選により初代理事長として不肖私が選任され、昭和 30 年に健蹄会の西村喬氏、32 年には立命館大学馬術部 OB 会の太田克己氏が理事長とされました。しかし 33 年に下記「日本縦断騎乗」の行事計画が生じ、この行事の事務的な仕事を京大馬術部に依頼したいという関係もあって、再び私が理事長を引き受けることになりました。そして翌 34 年には下記「皇太子御成婚記念馬術大会」を実施しましたが、35 年春には思いがけずローマ・オリンピックの予選に通ってヨーロッパ遠征する事になったので、西村氏に交代して頂きました。

当時、京都馬術連盟として行った大きな行事としては、

昭和 31 年 3 月「関西乗馬団体連合会 (UHK)」設立に協力

昭和 33 年 8～10 月「日本縦断騎乗」

(札幌→鹿児島、同志社大学馬術部 OB と部員 計 3 名)

昭和 34 年 5 月 17 日「皇太子御成婚記念馬術大会」(元 宝池競輪場)

等がありましたが、何れも和田完二氏のご援助によるものでした。

以上甚だ僭越ながらその頃の思い出を少し述べさせて頂くと共に、京都府馬術連盟今後益々のご発展をお祈り致しております。

平成 16 年 10 月

祝 京都府馬術連盟 50 周年

元理事長 坪田 毅 (和駿会)

昭和 40 年に京都に移ってから現在まで会員として種々の経験をし、勉強させていただいた京都府馬術連盟が満 50 年を迎えたことはお目出度いことで、運営にかかわってきた者として心よりお祝いを申し上げます。

今でも強く思い出として残っているのは、二巡目の最初の国体であった第 42 回国民体育大会馬術競技を京都で開催して、天皇杯総合優勝を果たしたことです。

国体馬術競技では天皇杯総合優勝は、第 19 回大会までは、選手と馬匹の揃っていた東京都が常に優勝をしていたのが、昭和 40 年に岐阜県で開催した第 20 回大会で開催府県が天皇杯総合優勝を果たした。選手強化の取り組みによっては地方の府県でも総合優勝できるという岐阜国体が契機となって、岐阜県馬連の行った選手の強化、競技馬の調達を参考にして、それ以降、開催府県は、いろんなかたちで他府県から選手を輸入し、他の団体から競技馬を購入して総合優勝することが常識のようになっていった。

そうした流れの中で、第 42 回国民体育大会馬術競技開催に対する取り組みを京都府馬術連盟は、諸先輩が築いてきた馬術連盟運営の精神に沿って、馬術連盟会員の力を結集し、自分たちの努力で総合優勝を勝ち取ろうという方針を決定した。

選手は京都四大学の OB で後輩の指導に当たっていた方々を中心に選手団を結成し、外人コーチの招聘と選手強化は東良弘一氏にお願いし、競技馬の購入と競技資材の設計調達は高宮輝千代氏にお願いし、国体運営全般の種々の問題については、日本馬術連盟の国体部門の役員として長年の経験を持った佐野種茂氏にお願いすることにして、それぞれ小委員会で話し合い、問題に対する原案をまとめて、理事会に諮って、一步、一步、目的に向かって確実に歩みを進めて行った。

当時の馬術連盟を運営する者にとって、有り難かったことは、京都府馬術連盟には上記のような優秀な人材が揃っていたこと、そして種々の問題はあったが、馬術連盟の理事会で決定したことは、会員の皆さんが全面的にご協力をしていただき、ご努力していただいたことで解決していったことである。

こうした京都府馬術連盟会員の日々の努力と総合した和の力が天皇杯総合優勝につながったので、優勝が決定したときは、選手や役員だけでなく、会員全員で喜び合ったあの感動は生涯忘れることはないであろう。

祝 京都府馬術連盟 50 周年

元理事長 堀田 武司 (和駿会)

京都府馬術連盟が 50 周年を迎えられたことを皆様と共に喜び申し上げます。

私の京都府馬術連盟との関わりは昭和 40 年京都産業大学が創立され、同時に創部された馬術部に入部した時からの始まりであり、その後昭和 45 年に卒業と同時に大学へ奉職しコーチとして後輩の指導に携わりながら、連盟の理事として運営のお手伝いをさせていただいています。

私が理事時代の一番大きな出来事として、平成 63 年の京都国体があります。当時坪田理事長の下で国体の会場選定から運営体制、さらに強化対策と大変なことであり、どれ 1 つとっても人材不足であったように記憶している。

そのような中で京都府から連盟宛に馬術競技全般に協力いただける人材の派遣要請があり、その白羽の矢が自分に当たり、京都産業大学から出向の形で昭和 61 年 10 月から国体が終了した 63 年 11 月末まで囑託職員として京都府国体局に奉職するようになった。

当時は強化選手として、京都府からの補助金を受けニュージーランドから購入した馬匹を調教し、それなりの成果を残すことができた。

会場設営では、全てが仮設対応となり、久御山町飛地の山を切り開き競技会場や仮設厩舎等のレイアウトから野外騎乗コースの設営、汚水処理まで担当した。跡地は太陽が丘のサブグラウンドとして多目的に利用されている。

競技会運営では、京都府が中心となり、宇治市・城陽市・久御山町・宇治田原町と京馬連が運営協議会を組織し業務分担を行い、宿泊、輸送、式典、接待等を分担した。

京都国体が終わった直後の 10 月 21 日に当時の京都ホテルにおいて千会長のご招待で、馬術競技会の関係者約 300 名が一同に集い、総合優勝の祝賀と競技会の成功を祝し大宴会が開催されたことは、私の記憶に鮮明に残っています。

その翌年(平成 2 年)から平成 8 年 3 月まで理事長の大役を仰せつかり、ポスト国体の下に以降の国体の強化等を推進したが結果を残すことなく理事を退任し、一旦京馬連から身を引いたが平成 11 年理事に復帰し現在に至っています。

祝 京都府馬術連盟 50周年記念

京都府馬術連盟 理事長 高宮 輝千代

京都府馬術連盟は昭和 28 年 6 月 7 日に 6 団体の構成団体をもって発足致しました。連盟が発足する 50 年前の明治 36 年に京都大学に馬術部が創部されました。大正 6 年大阪乗馬クラブ(増山忠次会長)が創立、大正 9 年には同志社大学にも既に馬術部は在りました。この年の秋第 1 回全国乗馬大会が習志野、代々木練兵場で開催されました。その 4 年後の大正 13 年 10 月 25 日・26 日第 2 回全国乗馬大会が大阪城東練兵場で開催されたと記録されています。同年 11 月 23 日京都学生聯盟が主催し馬術大会を開催しています。自厩舎を所有していたか否かは定かでは有りませんが立命館大学にも既に馬術部が創部されていたものと思われます。終戦を迎える昭和 20 年 8 月 15 日まで日本の馬術界は、大学、高専、軍人により支えられて来ました。

終戦後各種スポーツがまた復活して来ましたがそんな中で馬術、乗馬に対して京都大学を始め京都の他校の働きは大きいものが在ったと思います。戦後復活第 1 回(通算第 20 回)インターハイの開催は京都大学の主催で再開されました。第 1 回国民体育大会の開催も京都長岡競馬場であり、全日本馬術大会も第 1 回は国体の記録をそのまま流用しているのが実質的には、第 2 回昭和 24 年 6 月京都宇治金鈴会馬場で開催が初回といえますから、戦後の馬術界の復活は京都の大学馬術部から始まったと申し上げても過言で無いと思われます。

戦中戦後日本は大変な食糧難になりました。そんな中軍馬の払い下げを受けたものの馬に与える飼料調達に大変なご苦労が有ったと聞かせて頂いております。昭和 20 年～26 年頃まで食糧調達に時間を取られ連盟や組織の設立のための行動を起すゆとりなど無かったようであります。そんな中でも学生の連盟では全国的に活発な交流大会が行われていた様であります。お話をお聞きして泣き笑いしそうなようなご苦労の後飼料がどうかこうにか手に入るように成り出した昭和 28 年 5 月 24 日(日)京都馬術連盟発起人が京大楽友会館に集まり(京大 OB 荒木氏、同志社 OB 西村喬氏、立命館 OB 佐野氏)設立に合意、6 月 7 日京大楽友会館に於いて京都馬術連盟創立総会が開催され南大路謙一氏草案の規約を持って本日 50 歳を迎えたこの連盟が誕生致しました。同年 7 月 2 日に京都馬術連盟の第 1 回理事会が開催されここで以前から行われていた京都三大学戦の他に京都三大学新人戦を行う事が決められた様であります。昭和 39 年には京都乗馬クラブが大学の現役と大学馬術部 OB 会だけで編制されていた連盟に一般の乗馬クラブとして始めて加

盟、その後は毎年2~3回の月例会大会や関西で最初に開催された日韓親善大会にクラブ施設を提供、乗馬の普及を図って来られました。其れまでも京都には数箇所に乗馬場があったようですがその殆どが映画撮影用で有ったり、お祭り用だった様で競技を目的とはされていなかったようで連盟への加盟を必要とされなかった様です。昭和40年京都産業大学馬術部が加盟され44年7月に厩舎が完成し第1回産大大会が開催され翌年からは5月3・4・5日に開催され西日本における権威ある大会として昭和61年まで18回開催されました。昭和47年京都競馬場乗馬センターが連盟に加盟され秋には毎年参加料無料の大会を開催して頂き、昭和53年から春の大会を加え年2回の開催で乗馬、馬術普及発展に寄与して頂いています。

昭和52年まで京都馬術連盟は会長を置かず理事長交代制でありましたが昭和53年二巡目京都国体準備に併せ会長制に変更し、名称を京都府馬術連盟と改名いたしました。以来第十五代千宗室(現 千玄室)氏に会長のご苦勞を願って今日に至っています。

団体会員はその後福知山乗馬協会、高宮ライディング・パーク、ホーキーホース、カシオペアライディングパーク、洛水高校馬術部、乗馬クラブクレイン京都が加盟、個人の加盟も徐々にでは有りますが毎年少しずつ増加しています。

京都馬連は昭和31年6月には第16回ストックホルム・オリンピックに川口宏一氏(京大OB)、昭和35年8月第17回ローマ・オリンピックと昭和42年10月第19回メキシコ・オリンピックとに荒木雄豪氏(京大OB)が2回出場、昭和51年8月第21回モントリオール・オリンピックと昭和59年8月第23回ロサンゼルス・オリンピック、平成4年7月第25回バルセロナ・オリンピック、平成8年8月第26回アトランタ・オリンピックに東良弘一氏(京都乗馬クラブ)が日本の代表として出場されています。

昭和63年の二巡目京都国体では役員、一般会員、学生部員、高校生一丸となって総合優勝することが出来ました。その後も京都府馬術連盟に所属する諸兄が審判員やコースデザイナーとして各地で活躍している事は皆様ご存知の通りであります。ここまで京都府馬術連盟の生い立ちを簡単に書かせて頂きました。

最後になりましたが、本日はご多忙の中、京都府馬術連盟創立50周年記念式典を開催致しましたところ、かくも多数のご出席を頂き誠に有難う御座いました。昭和63年2巡目の京都国体では諸先輩方のご努力により優勝いたしました但其の後京都チームは下降線を辿っています。記念すべきこの50周年を機に仲の良い京都馬連会員一丸となって好成績が挙げられる様に努力して参ります。今後とも旧に倍したご声援ご指導を賜りますように宜しくお願い申し上げます。

本日は誠に有難う御座いました。